

ま ち の 話 題

豊岡

ななえの学校「きまぐれ教室」
**気軽に参加して
 癒しと元気をもらおう**

4月24日、KTRコウノトリの郷駅(但馬三江駅)で、ななえの学校「きまぐれ教室」が開講されました。今後、月1回開催予定です。スタッフは元・現看護師と元保育士の4人。代表の森本七重さんは、「自分の特技をボランティアで提供していただきます。ここに来て、心の余裕と元気をもらって帰ってほしいです」と話しました。また、出席した中貝市長は、「小さな小さな試みだが、この地域を元気にする取組み」と激励しました。

当日、1時間目の国語は「紙芝居」、2時間目の音楽は「ギターと歌」、自由遊びやバザーもあり、親子で楽しい時間を過ごしました。



▲箱から飛び出した牛乳パックのおもちゃにビックリ

城崎

第14回「しょうぶ湯まつり」
季節の香りで無病息災を願う

5月3～5日、城崎温泉街で「第14回しょうぶ湯まつり」が開催され、観光客らは七つの外湯と一部の旅館の内湯でしょうぶ湯の香りを楽しみました。

シヨウブは古くから厄除けの飾り物として使われ、城崎温泉でも民家の軒先にシヨウブを投げ上げたり、風呂に入れて季節の香りを楽しみながら無病息災を願う習慣があります。5月2日には「まんだら湯」でしょうぶ湯のお披露目があり、城崎子ども園の園児ら4人が「シヨウブの鉢巻きを楽しむにしていた。シヨウブのいい香りがする」などと話し、初湯を楽しんでいました。



▲シヨウブを頭に巻きはしゃぐ子どもたち

竹野

磯開きフェスティバル
**竹野海岸で
 春の海と触れ合おう!!**

4月29日、竹野町切浜の竹野スノーケルセンター・ビクターセンターで「磯開きフェスティバル」が始まり、5月5日までの間、大人も子どもも楽しめる体験教室が開催されました。インストラクターの指導を受けながらウニやヒトデなど磯にすむ生きものに触れる「磯の生きもの観察教室」や、海岸の漂流物を使って置物や楽器などを作る「ネイチャークラフト」、山陰海岸ジオパークのジオスポットをカヌーに乗って眺める「ジオ・カヌー教室」などがあり、参加者からは陽春の竹野海岸を満喫しました。西宮市から家族で訪れた今年第1号参加者の吉田翔野くん(8歳)は「生きものがいっぱいいてすごい」と喜んでいました。



▲海のいろいろな生きものに興味津々の参加者ら

日高

チャリティー神鍋高原水仙まつり

約7万本のスイセンが

皆さんをお出迎え!

4月23日と24日の2日間、道の駅「神鍋高原」周辺で「チャリティー神鍋高原水仙まつり」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。神鍋山周辺では、地域住民が神鍋高原に春の風物詩を作ろうと、平成16年からスイセンを植え始めました。まつりは今年で3回目になります。今回は、収益の一部を東日本大震災義援金として寄付することとしています。23日はジャズコンサート、24日は木製プラント作り教室や山野草の観察会、屋台販売などが行われました。少し開花が遅れていましたが、来場者らは白や黄色のスイセンを心行くまで満喫していました。



▲見事に花開いたスイセンをめぐる来場者ら

出石

郷土の誇る芸術を融合!

「100年のキセキ」伊藤清永・淀井敏夫



▲美術館内での生演奏(左)に聞き入る来場者

洋画家 伊藤清永(出石町出身)と彫刻家 淀井敏夫(朝来市出身)の、同年同月に生まれたその奇跡と日本美術界に残した偉大な軌跡を振り返る2人展を伊藤清永美術館で5月31日まで開催しています。4月24日と30日には、館内のBGMに、但馬地域在住の音楽家が、ピアノやエレクトーンを生演奏するミニコンサートを開催しました。通常は静寂な館内に、高らかな音色が響くと、来場者は、絵画や彫刻とともに音楽をも鑑賞していました。「赤とんぼ」などの童謡やショパン作曲のクラシック音楽と絵画・彫刻とが融合し、素晴らしい雰囲気包まれていました。

但東

たんとうチューリップまつり結婚式

チューリップの花に囲まれて

4月23日、たんとうチューリップまつりの会場(但東町畑山)で、人前結婚式が行われ、新郎の中田一樹さん(日高町山本)と新婦の松原あゆみさん(辻)が永遠の愛を誓いました。チューリップまつり始まって以来、初めての結婚式で、会場にはこの日のためにハートのミニアートが描かれ、バージンロードが設置されました。式に立ち会った来場者からは、新郎新婦の門出を祝う、温かい拍手が送られました。中田さんは「不安もありましたが、二人の思い出のあるこの会場で無事に式を行うことができ、ほっとしています。皆さんの心に残ればうれしいです」と話していました。



▲笑顔で結婚指輪を披露する新郎新婦